

丘陵固有の植物を増殖させる活動、地域住民向けのイベントの開催など、多彩な活動を愛護会が行ってきた。本報告では、こうした市民参加型緑地の運営のノウハウを紹介するとともに、愛護会会員を対象に実施した活動の継続意識に関する調査結果について報告する。

P-14

小笠原国立公園における適正な利用ルールの導入に向けた現状と課題

井上 麻美（東京農業大学） 下嶋 聖（東京農業大学）

一木 重夫（小笠原ホエールウォッチング協会） 麻生 恵（東京農業大学）

小笠原諸島は、国内のみならず世界的にみても希少かつ固有な自然環境を有していることで知られている。しかし現在、観光客によるオーバーユースなどが起因のとなり様々な面で自然環境に悪影響を及ぼしている。そのような背景から、平成14年、東京都は自然の保護と適正な利用を図る独自の要綱を策定し、自然環境保全促進地域として小笠原諸島の南島と母島石門一帯を指定した。またそれに伴い東京都と小笠原村は自然環境保全促進地域の適正な利用のルールを設定した。利用ルールの導入には、地域関係者の協力と、それに対する観光客の理解が必要である。本研究では、小笠原において地域関係者へのヒアリング調査と、観光客に対し適正な利用のルールについてアンケート調査を行い、自然地域における利用ルール導入に際する課題を明らかにし、解決策を探ることを目的としている。